

氏 名	神 原 咲 子
授 与 し た 学 位	博 士
専 攻 分 野 の 名 称	医 学
学 位 授 与 番 号	博甲第 3513 号
学 位 授 与 の 日 付	平成19年12月31日
学 位 授 与 の 要 件	医歯学総合研究科社会環境生命科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)

学 位 論 文 題 目	Social support, self-efficacy and psychological stress responses among outpatients with diabetes in Yogyakarta, Indonesia (インドネシア・ジョグジャカルタの糖尿病患者におけるソーシャルサポートとセルフエフィカシーの心理的ストレス軽減効果)
-------------	---

論 文 審 査 委 員	教授 土居 弘幸 教授 榎野 博史 准教授 氏家 寛
-------------	----------------------------

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

インドネシア・ジョグジャカルタにおける糖尿病患者の自己管理に影響を及ぼす因子の関係を明らかにする為 2003 年 9 月、Dr.Sardjito 病院に通う 40 歳以上の糖尿病患者から同意を得られた 204 名を対象とし、質問紙を用いてソーシャルサポート、セルフエフィカシーとストレスを答えてもらい、それらの関係を構造方程式モデリングを用いて検討した。その結果、情動的ソーシャルサポートはセルフエフィカシーを高め、ストレス反応を弱める事が解った。一方、行動的ソーシャルサポートは自己効力感を下げ、ストレス反応を高める事が解った。またセルフエフィカシー自体はストレス反応を弱めた。更に、子供からの支援があるほうがソーシャルサポートが高得点である一方で、医療者からの支援がある方が低得点であることもわかった。このことから情動的サポート、行動的サポートの社会背景を考慮に入れることは、糖尿病患者の血糖コントロール改善を行なう上で必要であると考えられた。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

近年話題となっている、ソーシャル・キャピタルに着目し、糖尿病患者の行動変容及び治療のコンプライアンスについて、ソーシャルサポートとセルフエフィカシーの相互関係について研究したものである。

こうした研究は、東南アジアではほとんど例がなく、ソーシャル・キャピタルに関する新しい研究である。

しかしながら、インドネシア中部の民間病院という制約があったため、アンケートの回収率や調査対象者の代表性の問題などが指摘された。

今後も、同じフィールドでさらに研究を深める予定であり、調査の体制、現地の協力も得られていることから、今後の研究の発展が期待される。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。

審 査 概 要：

疫学的な分析について難はあるが、着眼点や新規性について評価できるということで、審査委員の意見の一致をみた。